

「水出し緑茶」による生体防御の活性化 — 緑茶を常飲して感染症を予防する! —

技術の特徴

EGCの含有率が高い「水出し緑茶」の長期的な飲用は、自然免疫系の働きを適切なレベルへ改善する。

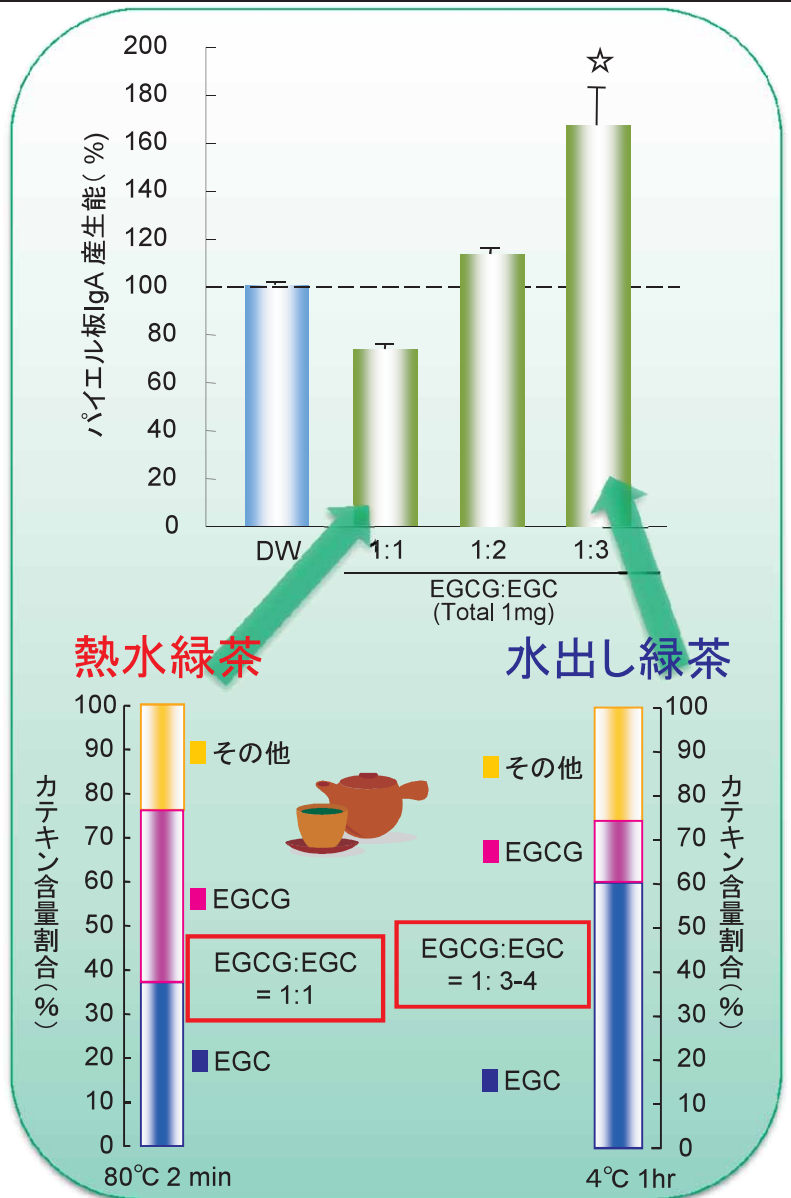
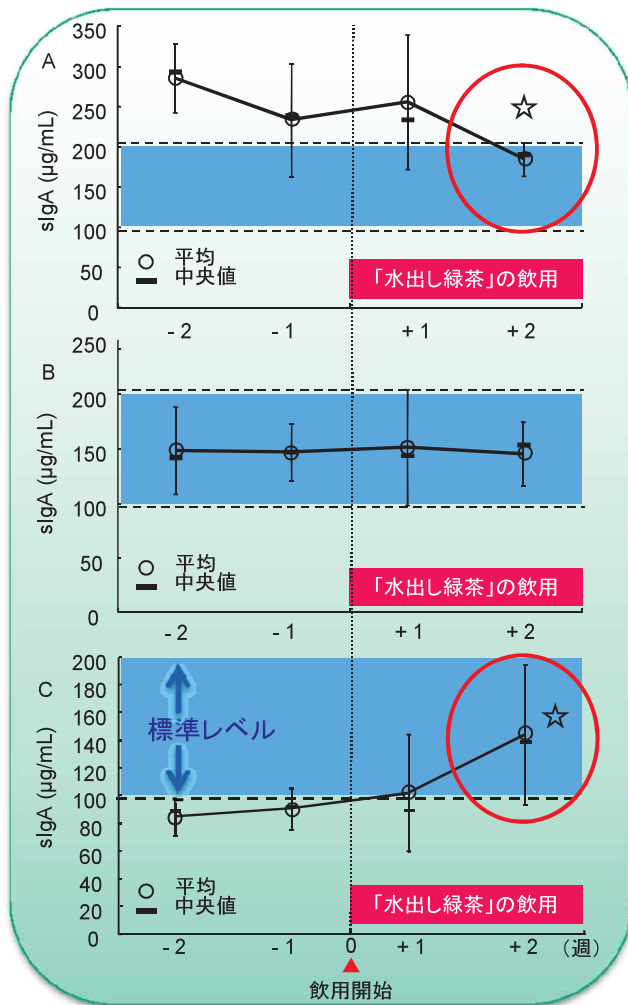


Figure 1 「水出し緑茶」の連続飲用による唾液中分泌型IgA濃度の変化

「水出し緑茶」を1日2回飲用。青色エリア(■)は標準的な唾液中分泌型IgAの範囲を示す (100-200 µg/mL)。「水出し緑茶」を飲用する前のIgA値が若干高い群(A)と若干低い群(C)では、「水出し緑茶」を2週間飲用することにより、IgAの値が標準レベルへ改善された。飲用前からIgA値が標準レベルにある群(B)では、「水出し緑茶」の飲用による変化はなかった。

Figure 2 EGCとEGCGの含有比率の違いによる

パイエル板から産生されるIgA量の違い
マウスに比率の異なるEGCG/EGC溶液を2週間経口投与。EGC比率の高い溶液でパイエル板IgA産生能が上昇した。

今後の展開

緑茶に含まれるEGC以外の有効成分の探索、作用メカニズムおよび他の生体防御反応に対する改善効果を調べるとともに、機能性緑茶飲料開発を目指す。

参考
茶業研究報告113, 71-76, 2012
Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry, 74(12): 2501-2503, 2010



農研機構
野菜茶業研究所



代表研究者: 物部真奈美
所属: 茶業研究領域

茶品質・機能性研究グループ

問い合わせ先: 0547-45-4101 monobe@affrc.go.jp

〒428-8501 静岡県島田市金谷猪土居2769